

東日本ユニオン NEWS

J R東日本労働組合
発責 教育・広報部
2018年7月17日 No.2

要求を勝ちとるために、組織強化・拡大を基軸とした方針を確立



労働組合=東日本ユニオンに結集しよう!

7月14日、東京都「ホテルラングウッド」において「第6回定期大会」を開催しました。大会には230名を超える組合員が結集し、大会構成員全員出席のもと、安全の確立をはじめ2018春闘、組織強化・拡大、労働条件・労働環境の総点検行動など、一年間の運動の総括を行い、職場から要求をつくりだし「東日本ユニオンに結集させた力で要求を実現させていく」とした運動方針を満場一致で確立しました。

職場からの運動と実践、そして成果によって方針がさらに補強される



質疑では全12地本12名の代議員から発言がありました。全組合員で「JR発足30年 あらゆる労働条件・労働環境の総点検行動」を行い「要求の実現にむけた取り組みを進めている」との報告や具体的な組織拡大の実践と成果が

語られたほか、効率化施策に対する経営側の「実施日ありき」の姿勢を問う発言や誠意あるエルダー社員制度運用の実現にむけた取り組みなど「労働組合だからこそできる取り組み」が報告されました。

さらに、労働組合の必要性と存在意義が問われている中、国鉄採用の代議員から「地本の旗を最後まで掲げ続ける」と決意が述べられたことに対し、JR採用の代議員は「次代につなぐ若き組合員の加入を実現した」と応えるなど、組合員同士のつながりと全12地本のつながりが実感できる大会となりました。

執行部答弁ののち、提起したすべての議案が満場一致で採択され、長野地本選出の滝沢議長による円滑な進行とすべての組合員の力によって大会は成功し、新たな闘いのスタートを切りました。



大会宣言 (案)

本日、私たちは「ホテルラングウッド」において「第6回定期大会」を開催し、今日までの成果と教訓、将来を見据えた当面する運動方針を満場一致で確認した。

2018春闘を区切りに労使における情勢は大きな転換点をむかえた。2018春闘は、JR東労組のスト行使通告に端を発した組織混乱により会社側の労働組合への不要論・無用論に拍車をかけ、賃上げよりも組織問題が大きく打ち出され少なからず影響を及ぼす結果となった。そのような状況の中、私たち東日本ユニオンは、労働組合としてのあるべき姿を追求し、組合員・家族の利益を第一に組織混乱に左右されることなく2018春闘を闘い抜いてきた。私たちの揺るぎない姿勢は各地で仲間の共鳴を呼び、大会以降21名の仲間を迎え入れることができた。私たちは、多くの労働組合未加入者の受け皿となるべく、さらに加入に向けて働きかけを強化していく。

3月以降、悪質な鉄道妨害が続いている。安全・安定輸送を脅かし、お客さまや社員の命を奪いかねない鉄道妨害を許さない。労働者の視点から、些細な事象をも見逃すことなく安全・安定輸送に向けて警鐘を鳴らし続けなければならない。

多くの職場では、社員代表を選出する「過半数代表者選挙」が実施された。労働条件・労働環境を維持・向上できるのは労働組合が唯一無二の存在であることをあらためて確認するとともに、そこで働く仲間の安全・健康・命を守ることへの責任と決意を持って代表者選挙に挑んできた。立候補に向けて組合員との厳しい議論と他労組組合員や未加入者への働きかけなど、組織が強化されたことは大きな成果である。

昨年4月から提起してきた「JR発足30年 あらゆる労働条件・労働環境の総点検行動」は、本部・本社間の団体交渉を皮切りに、各地方において精力的に交渉が展開されている。組合員が未だ変わらぬ労働条件・労働環境に対する不満や不安を組織の要求へと高め、実現に向けた取り組みをさらに強化していく。

会社は、乗務員休憩室を中心とした「防犯カメラの設置」や「保線部門におけるメンテナンス体制の最適化」など矢継ぎ早に施策の提案・実施をしている。さらに「乗務員勤務制度の見直し」とあわせて「賃金制度の改定」が提案され交渉が続いている。鉄道の安全輸送の根幹と労働環境・生活環境が大きく変化する施策に対して、しっかり向き合い取り組んでいく。

4月1日より実施されているエルダー社員制度の変更に伴う検証運動、来年度対象者への制度運用の実施の検証、そして、エルダー社員の基本賃金改善に向けて全組合員の英知と団結力を結集させ取り組んでいく。

これからの30年を見据えた中で、労使合意の上で「労使共同宣言」を解約し新たなスタートを切った。職場の社員の多くは労働組合に未加入である。労働組合に所属していなくても何の不自由も不安もないと思いついでいる。もし、そうであるならば非常に危険な状況である。職場の組合員・家族の利益を守るのは労働組合以外に存在しない。だからこそ、労働組合に求められているのは何なのか、職場に存在している私たち東日本ユニオン組合員が求められているのは何なのか愚直に追求し、実践していくものである。

以上、宣言する。

2018年7月14日
JR東日本労働組合
第6回定期大会